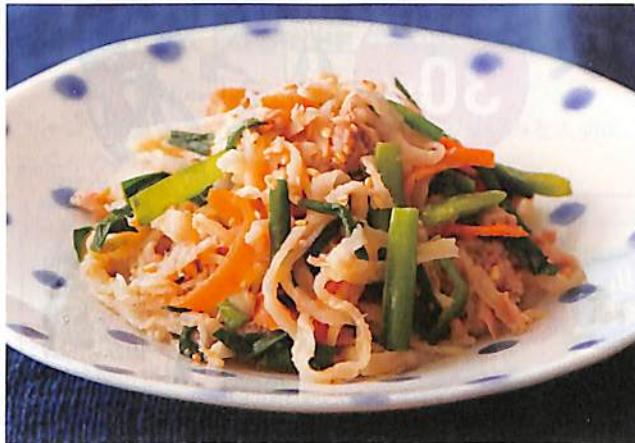


食DE 健康 応援レシピ



管理栄養士・料理家
中津川かおり先生
なかがわ

福島県出身。東京家政大学大学院にて食物栄養学専攻修了。管理栄養士・料理家・母親として「家族の健康は家庭の食卓から」をモットーに、身近な食材で作りやすいレシピ提案を心がけている。



- 簡便性を優先する場合は、切干大根は水でもどし、には電子レンジ加熱でOKです。
- 作り置きする際は、冷蔵庫で2~3日保存可能です。
- 食物繊維をたっぷり含んだ切干大根の簡単なあえもの。またツナを加えてたんぱく質も補給できます。

切干大根とツナの中華風あえもの

1人分 | カロリー 85 kcal | 塩分 0.4 g | 脂質 5.1 g

材料(4人分)

CO-OP切干大根人参ミックス 30g
にら(長さ2cmに切る) 40g
ツナ(オイル漬)(缶汁を切る) 1缶(70g)

ぽん酢 大さじ1
A ごま油 小さじ1/2
いりごま 少々

使ったのはコレ!



CO-OP
切干大根
人参ミックス

切干大根の生産地で有名な宮崎県で作った、乾燥人参をミックスした切干大根です。

作り方

- 鍋に湯を沸かし、「CO-OP切干大根人参ミックス」を入れて1~2分ゆで、にらを加えてさらに1分ゆでる。
- 湯を切り、水気をしっかり絞る。
- ボウルで①を合わせ、②とツナを入れてあえる。



東京大学大学院教授 佐々木先生のためになる栄養学

「食DE健康」コラム④

東京大学大学院教授
佐々木 敏先生
ささき さとし

東京大学大学院医学系研究科
社会予防疫学分野教授
日本の栄養疫学研究において、
中心的役割を担い続ける

Q 緑茶カテキンでやせますか?(前編)

A やせる確率は高いように見えますが、厳しくいえば「やせるとはいえない」です。

緑茶に含まれるカテキンに脂肪燃焼作用があるかもしれないということが分かり、ダイエットへの期待が集まってきた。では、どのくらい効果があるのでしょうか。「緑茶カテキンで何キロやせるか」を知るために、誰かが一定期間カテキンを飲んで、その前後で体重を測ればよいのですが、実はそんなに単純ではなくて、よくあるのは研究の参加者がせっかくだからと運動や食事制限を始めてしまい、結果が緑茶カテキンの効果だといえなくなってしまうことです。そのため、最低限守らなければならない規則がいくつかあります。

- ①緑茶カテキンを飲む以外に、体重が変わりそうなことはなにもしない。
- ②緑茶カテキンを飲まない人たち(群)も作って、飲む人たち(群)との体重変化を比べる。
- ③緑茶カテキンを飲む人、飲まない人の群分けは無作為に行う。
- ④どちらの群に入っているかは参加者に(できれば測定者にも)分からぬようにする。

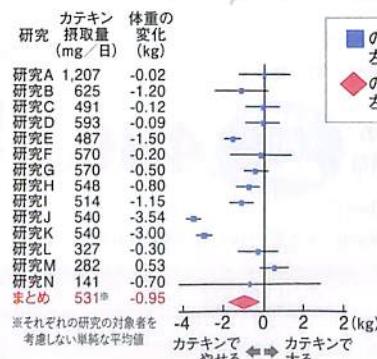
図は、この基本的な規則を守って3カ月以上調べた14の研究を分析し、まとめたものです。結果は「950g体重が減った」となり、95%信頼区間の上限がマイナスですから、この図からは絶対とはいえないものの、やせる確率はかなり高いように見えます。ところが、その後もう一度行われた厳しい分析では「やせるとはいえない」と

いう結果になりました。

今回のような「それって効くの?」という素朴な疑問の舞台裏には、客観的な調査方法に加え、さらに難しい科学があります。「効く」というにはデータの正しい見方が重要で、健康に生かすためにはとても大事なことです。次回はその「もう一度行われた厳しい分析」について紹介させていただこうと思います。

図:緑茶カテキンの減量効果を調べた研究のまとめ

基本的な規則をほぼ守って緑茶カテキンの減量効果を調べた研究をまとめたメタ・アナリシス。研究の前後における体重の変化(kg)を表しています。
※メタは超、アナリシスは分析



■の中央は研究ごとの結果
左右に伸びる直線はその95%信頼区間
◆の中央は14の研究をまとめた結果
左右の幅はその95%信頼区間

すべての研究をまとめると、「950g体重が減った」(ひし形の中央)という結果でした。ひし形の右端(95%信頼区間の上限)が負の値(マイナス)ですから、絶対とはいえないものの「緑茶カテキンでやせる」確率はかなり高いといえます。

この研究の緑茶カテキン平均摂取量は1日あたり531mgで、普通の緑茶を大きめの湯のみ(約120ml)で4杯半相当でした。

もう一度行われた厳しい分析結果からは、「やせるとはいえない」でした。その理由については次回10月号で。

詳しくは「佐々木敏のデータ栄養学のすすめ(312~320ページ)」(女子栄養大学出版部)をご覧ください。

[参考文献] Jergens TM, et al. Green tea for weight loss and weight maintenance in overweight or obese adults. Cochrane Database Syst Rev 2012; 12: CD008650.